

2 モモ果実赤点病（特殊報）

令和6年7月、県内のモモほ場において果実に赤色の小斑点が生じる被害が確認された。被害果実及び枝を名古屋植物防疫所に同定依頼したところ、モモ果実赤点病であることが確認されたことから、12月26日に特殊報を発表した。

1 病害虫名

モモ果実赤点病 *Ellisembia* sp.

2 作物名

モモ

3 全国における確認状況

本病は、国内では平成20年に福島県で初めて特殊報が発表され、和歌山県、岡山県、広島県、福岡県でも発生が報告されている。

4 病徴及び発生生態

- (1) 果実の表面に赤色の斑点を生じる（写真1、2）。
- (2) 菌は枝表面にできた病斑上で越冬し、春から夏にかけて枝病斑に形成された分生子（写真3、4）が風雨で飛散する。分生子柄は暗褐色、菌糸および分生子は褐色、分生子は基部から先端に向かい細くなる棍棒状で3～4個の擬隔壁を有し、先端には透明な粘質の付着物が認められる（写真5）。
- (3) 本病の症状はカイガラムシの被害に類似しているが（写真6）、吸汁痕の有無で区別できる。

5 防除対策

- (1) 早期に袋かけを実施する。罹病枝、果実はほ場外へ持ち出し、適切に処分する。
- (2) 薬剤散布を行う。薬剤散布にあたっては、最新の農薬登録情報を確認し、薬剤抵抗性の発達を防ぐため系統（FRACコード）が異なる薬剤でローテーション散布を行う。伝染源となる枝病斑にも薬液がかかるよう樹冠内部まで散布する。



写真1 モモ果実赤点病の被害果

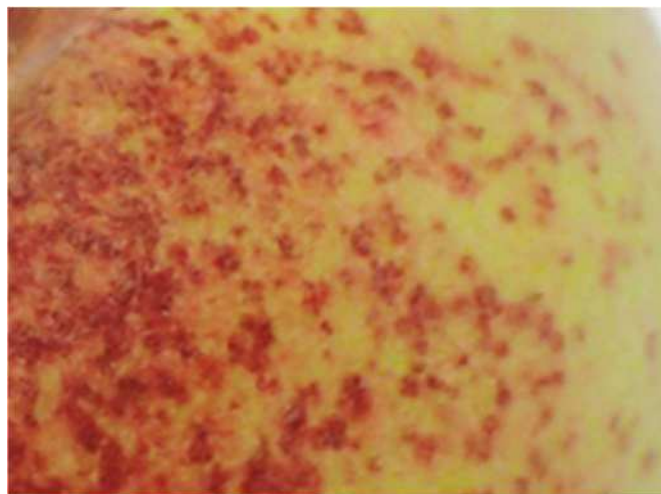


写真2 モモ果実赤点病による赤色の斑点

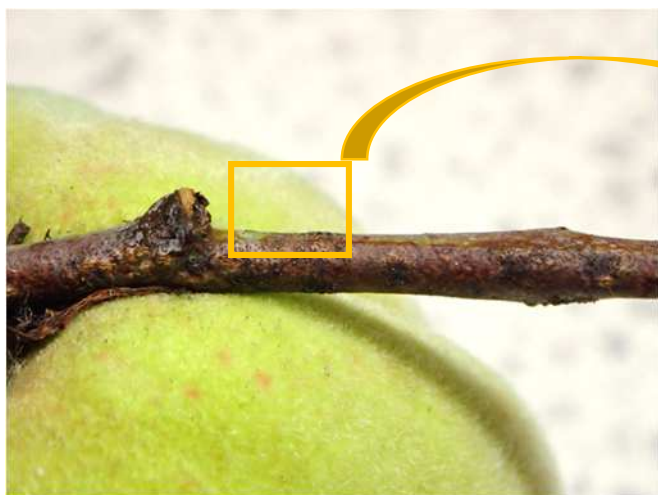


写真3 モモ果実赤点病の枝病斑



写真4 モモ果実赤点病の枝病斑上の分生子



写真5 モモ果実赤点病の分生子



写真6 カイガラムシによる被害果

拡大写真